

西土佐小学校 第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

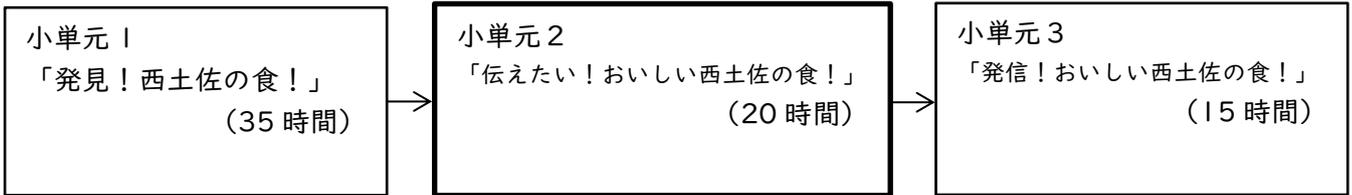
令和4年11月15日(火) 第5校時

児童数 18名

指導者 岩村 悠雅

I 単元構想図

単元名 「おいしいき食べてみいや西土佐のうまいもん」全70時間
小単元2 「伝えたい!おいしい西土佐の食!」(20時間)



◆学習の流れ

きっかけ

小単元1では、西土佐の特産物について知るとい
う目的のために、調べ学習や聞き取りを行ってき
た。そのことからわかったことやもっとやってみた
いことなどをたくさん出している。

第1次 自分たちが発信したいことはどんな
ことか考えよう。(3時間)

○自分たちが小単元1で調べたことをもとに、発信
したい相手などを決める。

◆1学期の終わりに模造紙にまとめていることを見
せながら、振り返りをさせる。その中で、農
家の方や自分たちの思いや願いがあったことを
思い出させる。

第2次 特産物の良さや地域の方の思いを再発見
しよう。(6時間)

○特産物の良さを再発見する計画を立て、農家の方や
「JA」の方に良さを聞く。

○地域の方の思いをより深く知るために「山間屋」や
「星羅四万十」の方などに聞き取りを行う。

◆本気になって取り組んでいる大人にも出合わせ、
子どものやる気につなげさせる。

◆意識の流れ

- ・1学期には、農家の人やいろん
な人たちに話を聞いたね。大変
な思いをして育てていること
や、いろんな工夫をしながら仕
事をしていることがわかった
ね。
- ・1学期に見てきた「よって西土
佐」や「JA」の取り組みをほか
の人にも知ってもらいたいな。
西土佐小の子どもたちを含め
て、西土佐の人たちも知らない
かもね・・・。
- ・農家の方が全国に広めていき
たいと言っていたよね。自分た
ちも西土佐の特産物を全国の人
に知ってもらうためのお手伝い
をしたいな。

- ・今まで農家の方や「JA」の方に良
さを聞いてきたけど、自分たちが観
光客の方に特産物の良さを伝える
にはまだ足りないね。
- ・自分たちは西土佐の特産物の良
さを観光客の方に知ってもらう
にはメニューを作ってアピールす
るのが効果的だと思うけど、「山
間屋」や「星羅四万十」の方
たちはどう思っているのだ
ろう。

第3次 いろいろな人に話を聞いたことや、調べたことを整理・分析しよう。(6時間)

- 良さを伝えるための方法をいくつか考え、今まで調べてきたことを根拠に自分の考えを持つ。
- 今まで調べてきたことを根拠に各グループで良さの発信の仕方を吟味する。(本時)
- 各グループで考えた発信の仕方をほかのグループに提案する。

- ◆思考ツールをもとに、整理・分析させる。
- ◆算数や国語など他教科で学習したことが使えるように、声かけをする。

第4次 本当に自分たちが発信したい相手や内容は何か、まとめよう。(5時間)

- 他者の意見と自分たちがしてみたいこととをすり合わせながら、西土佐の食のよさを伝えるための方法を決定する。

- ・農家の方がおいしさを知ってほしいと言っていたから、メニューを考えて作ったものを販売する方法がいいと思う。
- ・西土佐に来た観光客の方には、ポスターやポップで良さを伝えると、農家の方の思いなども伝えられるからいいと思う。
- ・パンフレットを作って「よって西土佐」に置いてもらえば、たくさんの人が長い間見てくれるから、効果的だと思う。

- ・やっぱり観光客向けに西土佐の食材を使ったメニューを作りたい！アンケートの結果も使って、こんなメニューを作ってみよう！
- ・「よって西土佐」の駅長さんにプレゼンテーションして、協力してもらえるようにしたいな。
- ・自分たちがしていることを高知新聞の人たちに取材にきてもらえないかな。

単元でつきたい力

- ・西土佐の食の良さや特徴に気付き、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることを知る。また、インタビューなどの調査活動を相手や場面に応じた方法で実施する。

【知識及び技能】

- ・集めた情報を事象と比較・分類、関連付けし、西土佐の食を活性化する取り組みを考えるために整理している。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・地域との関わりを通して、自分でできることを見つけ、友達と協力しながら取り組もうとしている。

【学びに向かう力、人間性等】

2 単元について

○単元観

西土佐は、四万十川中流域に位置し、四方を山々に囲まれた自然豊かな地域であり、そのような自然を生かして農業が盛んに行われている。特産品としては、米ナス、ゆず、ししとう、栗、いちごなどがあり、児童の家族や知り合いの中にはそれらの特産品を栽培し、農業を営んでいる人も多い。また、学校近くには「道の駅『よって西土佐』」や「星羅四万十」、「JA」などがあり、西土佐の特産品を売っていたり、食したりできる施設があり、児童にとって、特産品を身近に感じることができる環境にある。一方で、農業を営む方の高齢化や後継者不足の課題が顕在化しており、そのような現状を克服しようと、官民が一体となり地域をあげて特産品を売り出そうとしている。

そのような状況を考慮し、社会科の農業の学習と関連させ、西土佐の「食」に対する興味や課題意識を持ちながら、地域の人達とともに地域を一緒に盛り上げることを通して、地域に貢献しようとする力を育むことができる単元構想を行った。

○児童観

本学級の児童は、4年生のときに「四万十川」をテーマに学習をしている。水生生物調査や清流度調査などの体験を通して、四万十川をきれいにしたいという思いをもって学習をしている。また、4年生国語の単元で、四万十川についてリーフレットで紹介する学習を行っている。

5月に行った「総合的な学習の時間についての授業アンケート」から、「総合的な学習の時間は楽しい」肯定的評価100%、「総合的な学習の時間で取り組んでいる課題を、一生懸命考えている。」肯定的評価100%という結果から、総合的な学習を楽しんでいることがわかる。また、「ほかの教科の学習が総合的な学習の時間の活動に役立っている」肯定的評価100%、「地域の活動に参加するなど地域とのつながりが増えた」肯定的評価100%と、地域に愛着を持って関わり、他教科の学習を活かして授業に取り組んでいることがわかる。しかし、「総合的な学習の時間では、自分の考えがほかの人に伝わるように、理由をつけて説明している。」肯定的評価81.3%と、自分の思いを書いて表現することは得意でも、考えを積極的に発表することに弱さがみられる。

○指導観

小単元1では、西土佐の食材について知ることから始めた。インターネットで調べたり、家の人から聞き取りをしたりして情報を集めた。これから調べていく特産物を絞るためにピラミッドチャートなどの思考ツールを使って考えたが、情報が足りず、決められなかったため、「よって西土佐」に行ったり「JAの方」に話を聞いたりした。そこから知った情報を整理・分析し、米ナス、ゆず、栗について調べていくことにした。それぞれ栽培や収穫の時期が違うため、1学期は米ナスを中心に調べた。その中で農家の方に社会科で学習したことを基に、作り方や工夫、どんな思いや願いを持っているのか、今感じている課題、それを解決するための取組などを聞き取った。また、米ナス・ゆず・栗の中で何が有名か調べるために、「よって西土佐」にフリップボードを置いて調べ、その結果を算数や国語で学習したことをもとに、グラフや模造紙にまとめることができた。

小単元2では、西土佐の食の良さを伝えるためにはどうすればいいかを考え、実行していく。まず小単元1で学習したことをもとに、自分たちが発信したいことや発信したい相手などのゴールを確認する。次に自分たちが今後していきたいことを決めていく。「西土佐の特産物のおいしさをアピールするために特産物を使ったメニューを作って山間屋で出してもらいたい」「西土佐に来た観光客の方にポップなどを使って特産物の良さを伝えたい」「ポスターを作ってお店などにおいてもらいたい」などの意見が出てくると考えている。出た意見が実現可能なのか、効果的なのかということを考えながら絞り込んでいく。絞り込んでいく際には、「よって西土佐」や「JAの方」などに聞き取りをして、自分たちの思いと他者（観光客や農家、西土佐の食を支える人たちなど）の意見をすり合わせていく。自分たちではわからないことがたくさん出てくると予想されるので、そのたびに地域の方に協力してもらいながら解決させることで、地域との関わりが常にあるようにしたい。その際には、目的に応じてどの方に声をかけたらいいのかも考えさせる。小単元の最後には、西土佐の食のよさを伝えるために実現可能で効果的な方法を絞り込み、次の小単元で実行していけるようにする。どの場面でもそれぞれが自分の考えや思いをもって話し合うことができるように、付箋に自分の考えを書かせてから発表させたり、ペア・グループなど少人数で伝え合う機会を多く設け、自分の言葉で表現させたりする。また、全体で意見が出たときにはよりよい考えになるように吟味する活動を常にとり、資質・能力の育成に努める。

小単元3では、前単元で考えたことを実行していく。実行していく中で、地域の方の声を聞いたり、アンケートを取ったりしながらよりよくなるように改善していく。自分たちが決めたことが、形となって実現する体験をさせることで、「やりたい!」「やったらできるかも」という次への意欲や主体性を育みたい。また、情報収集や整理・分析などのサイクルを何度も回しながら、児童が思考し、自分事として真剣に取り組んでいけるようにしたい。

3 単元の目標

西土佐の特産物について触れることを通して、地域の人たちが西土佐の食を支えるために色々なことに取り組んでいることを理解し、西土佐の食の活性化のために自分たちにできることを考えるとともに、自分の生活や行動に生かすことができるようにする。

4 単元の評価規準

知識・技能 【知】	思考・判断・表現 【思】	主体的に学習に取り組む態度 【態】
①西土佐の特産物について知り、それに携わる人々の思いや願いがわかる。 ②インタビューなどの調査活動を相手や場面に応じた方法で実施している。 ③西土佐の特産物を支える人々の思いや願いが、西土佐の食の活性化につながっていることへの理解は、西土佐の特色やそれを支える人たちが行っている取組などを探究的に学習してきたことの結果であることに気付いている。	①特産物について問いを見出し、特産物の良さを探る課題を自ら作り、解決に向けて見通しを持っている。 ②西土佐の特産物を活性化するために必要な情報を収集している。 ③集めた情報を事象と比較・分類、関連付けし、西土佐の食を活性化する取り組みを考えるために整理している。 ④伝える相手や目的に応じて、伝え方を工夫しながらまとめ、表現している。	①西土佐の特産物を活性化させるために、目的意識をもって意欲的に取り組もうとしている。 ②探究的な活動を通して、自他のよさを生かしながら協働して学び合おうとしている。 ③地域との関わりを通して、地域のために自分ができることを見つけようとしている。

5 指導と評価の計画（全時間 本時 14/20）

次	時	ねらい（○）と学習活動（・）	評価の重点			評価方法
			知	思	態	
一	1 ～ 3	○西土佐の特産物の良さを伝えるためには、どんなことをしたらよいかを考えることができる。 ・小単元1で調べたことをもとに、自分たちが発信したいこと、発信したい相手などを確かめる。 ・特産物の良さについて再確認する。		①	①	・発言 ・ワークシート ・行動 ・振り返り
二	4 ～ 9	○西土佐の特産物の良さや、地域の方の思いについて情報収集することができる。 ・特産物の良さを再発見する計画を立て、農家の方や「JA」の方に良さを聞く。 ・地域の方の思いをより深く知るために「山間屋」や「星羅四万十」の方などに聞き取りを行う。	①	②		・発言 ・ワークシート ・行動 ・振り返り
三	10 ～ 15	○西土佐の食の良さを伝えるために、自分たちが決めた方法が、実現可能で効果があるのかを吟味することができる。 ・良さを伝えるための方法をいくつか考え、今まで調べてきたことを根拠に自分の考えを持つ。 ・今まで調べてきたことを根拠に各グループで良さの発信の仕方を吟味する。（本時） ・各グループで考えた発信の仕方をほかのグループに提案する。	② ③	③		・発言 ・ワークシート ・行動 ・振り返り

四	まとめ	16 5 20	○西土佐の特産物のよさを伝えるための方法を決定してまとめていくことができる。 ・調べたことや地域の方たちにもらった意見を参考にしながら、自分たちにできることを決定する。 ・小単元をまとめる。	④	② ③	・発言 ・ワークシート ・行動 ・振り返り
---	-----	---------------	---	---	--------	--------------------------------

6 本時の指導

本時の目標	自分たちが西土佐の特産物について学んだことを観光客にどうやって発信するのか、発信の仕方を吟味することができる。	
本時の評価規準	思考ツールを使って意見を述べたり、友達の見解も踏まえたうえで、自分たちの発信の仕方について検討したりしている。【思】	
情報活用能力	考えるための技法を適切に選択・活用し、情報を整理する。	
準備物	ワークシートなど	
学習の展開		
学習活動	意識の流れ	評価規準【評価方法】
1. 前時までを振り返る。	・農家の方は、もっと観光客の方に特産物のよさを知ってほしいと言っていたね。 ・観光客も「西土佐に来た人」と「来ていない人」に分けられるね。	
2. めあてを確認する。	地域の方の思いや特産物の良さを伝えるためには、どの方法がいいのかな。	
3. ピラミッドチャートを使って、班で発信の方法を吟味する。(個人→グループ) 【しぼりこむときの視点】 ・「西土佐に来た人」「西土佐に来ていない人」には、それぞれの発信方法が効果的か。(必要に応じて全体共有する)	・農家の方がおいしさを知ってほしいと言っていたから、メニューを考えて作ったものを販売する方法がいいと思う。 ・西土佐に来た観光客の方には、ポスターやポップで良さを伝えると、農家の方の思いなども伝えられるからいいと思う。 ・パンフレットを作って「よって西土佐」に置いてもらえば、たくさんの人が長い間見てくれるから、効果的だと思う。	・思考ツールを使って意見を述べたり、友達の見解も踏まえたうえで、自分たちの発信の仕方について検討したりしている。 【発言・振り返り】
4. 本時の振り返りをする。	◇求める振り返り(目指す主体的な姿) ◎話し合いの中で、地域の方の思いや聞き取りからわかったことも入れて話すことができた。○○さんの意見を聞いて、メニュー作りがいいと思ったから、これからみんなで実行していきたい。 (比較+見通す) ◎より良い案にするために、もっと話したいし、さらにデータを収集したい。 (比較+見通す) ◎今日グループで話してみても、よりよい案にすることができた。(比較)	

7 板書計画

